

ごあいさつ

聖路加看護学園理事長 日野原 重明

2010年度の聖路加看護大学の教育研究活動について、各担当者の取り組みについて、『年報』で関係各位にご報告する。

「健康」という人間にとってもっとも基本的なニーズを担うのが医療であり看護である。当大学は、1920年の設立以来、「人間と社会を理解することができる看護師の育成」を目標に掲げて歩んできた。看護は社会の動きと同調した「生きている科学」ということでもある。これまで90年間にわたる当大学の教育研究活動は、それに対応して新たな分野や領域を組み入れて発展してきたが、本誌によって2010年度の積極的な取り組みを報告できることはうれしい限りである。

日本の高等教育機関が1年間に行った教育研究および社会活動についてその業績を内部の教職により自己評価をして発表することは長く行われてきたが、その多くは単なる事業報告であり、本当の意味での自己評価ではないという批判があった。本学では2009年度から井部俊子学長によって思い切った編集方針の変革が打ち出され、各部署の責任者によって外部の方々にもわかりやすい客観的情報を提示することとなり、2010年度は本当の内部評価として更に改善されたものとなった。

さて、今年度を終えようとした3月11日、日本は「東日本大震災」および「福島第一原子力発電所」の大事故に遭遇した。2010年度の修了式・卒業式を終えた翌日のことであった。

地震や津波、そして放射能汚染に被災された地域住民の安全と健康をいちばん早く、そしていちばん身近なところで支えるのが医療であり看護であるということを改めて強く覚悟させられた出来事であった。「人間と社会を理解する」という当大学の設立理念をもう一度確認し、その立場から日本の復興のために私たちの力をどのように用いるべきか、新たな課題として考えていきたい。